

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	123

【評価】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 余土小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 濱石 一利

※ 肯定率とは、評価(%)の評価4と評価3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評価(%)				評価平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	65	35	0	0	3.7	○松山の授業モデルをベースとしながら各教科等の特性を生かした授業改善が行われている。ベテランと若手が一緒に教材研究を行い、単元を通した授業研究に取り組んだ。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	○学年に応じた一人一台端末の活用が進んでいる。校内研修や研究協議でロイロノート等の機能を活用することで、教職員の活用力や授業での活用の幅が広がっている。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	68	32	0	0	3.7	○各種学力調査や体力テストの結果を分析して作成した学力向上推進計画や体力アップ推進計画について、全校で共通理解を図って指導を行うことで成果を上げている。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	98	63	35	2	0	3.6	○生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の自然や文化、人を題材とした学習を行えた。地域のもつ教育力を生かして、より一層郷土を大切にする児童を育てたい。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	98	70	28	2	0	3.7	◆学年の発達に応じて、人権・同和教育を行っているが、いじめ問題が中心になりがちで、LGBTQやネット上の人権侵害など、近年問題になっている人権問題も取り入れたい。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	98	75	23	2	0	3.7	○教員と保護者の代表者が毎年検討している「通学服や身だしなみについて」は保護者アンケートで95%以上の賛同を得た。今後、児童の意見も反映させていきたい。
			学校関係者	86	57	29	14	0	3.4	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	98	48	50	2	0	3.5	◆学年が上がるにつれ、多様な職業の人の話を聞いたり関わったりする経験を保障している。将来の夢だけでなく、生活や学習の目標に向けて努力できる子どもを育てたい。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	◆下校後、公園で多数の児童が遊んでいるので、けがやトラブルも少なくない。行き帰りの交通安全や遊び方のマナーを守ることを継続して指導していく必要がある。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	65	35	0	0	3.7	○保健室に来た子どもの様子で気になることは、養護教諭がこまめに管理職への報告と家庭連絡をしているので、児童の健康と安全の情報共有ができています。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	98	70	28	2	0	3.7	◆どの学級も換気や手洗いが習慣化しているが、冬場は手洗い、夏場は換気が十分に行えていないことがあるため、啓発を行っていくようにしたい。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	○特別支援学級だけでなく、通常の学級に所属する配慮が必要な児童の情報共有を定期的に行うことで、教職員の共通理解のもとで指導を行うことができた。
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	98	68	30	2	0	3.7	◆若い先生が多くなっているので、縦横の報告・連絡・相談体制を再確認し、子どもや保護者の対応を教員が一人で背負い込まないよう、組織的な対応力、解決力を高めたい。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	70	30	0	0	3.7	○研修主任を中心に、年間を通じて授業研究と様々な教育課題への対応に向けて研修を行うことができた。水曜を5時間授業にすることで放課後の研修時間を捻出できた。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	98	60	38	2	0	3.6	○次年度から文科型コミスクを導入することが決まり、本年度は、部活動の地域移行に向けて必要な対応の洗い出しを行った。次年度から具体的な取組を手掛けていきたい。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	80	20	0	0	3.8	○学校ホームページは毎日更新している配信システム(テトル)を使って、適時、情報発信や情報確認を行うことで、家庭や地域への連絡や情報共有がスムーズになった。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	98	53	45	2	0	3.5	○学校補助員やスクールサポートスタッフが廊下や教室の掲示物の作成を担ってくださり、季節や行事ごとに統一感のある展掲示ができています。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	55	45	0	0	3.6	○幼保小中間で、情報交換や引継ぎを丁寧に行っているが、必要に応じて子どもとの相談や保護者との相談を行うことで、学校生活に対する不安感の解消に努めている。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	98	53	45	2	0	3.5	○児童の抱える事情や配慮事項の多様化のため、丁寧な引継ぎと情報交換を行った。 ◆引継ぎ書類や引継ぎ情報は個人情報のため、適切で確実な管理を心掛けたい。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	